


第24回日本歯科医学会(ポスター発表・横浜市)2021. 9.23~25 (P109-E)

「一井正典・フィラデルフィア時代の日本人交流者たち」 内容紹介

発表者: 熊本県・松本晋一 渡辺賢治 2021-6-28 作成




一井正典先生とは? = 「夢を正夢した人」



- 西南ノ役の美少年
- 青雲の志を抱いて渡米・苦学 フィラデルフィア・デンタルカレッジ卒
- 日本人初の米国本土開業医・教授
- 近代西洋歯科の先駆者 ○ 三天皇の侍医
- 熊本県近代文化功労者

- 熊本県人吉市寺町出身・文久2年(1862)6月8日生
- 13歳で父母を亡くす 14歳で西南戦争従軍
- 22歳で人吉を出帆 23歳で渡米
- 29歳で米国本土で歯科開業、教授
- 32歳で帰国 33歳で東京神田に開業
- 34歳で笑気麻酔実験、各種論文発表
- 38歳で文部省医術開業試験委員
- 45歳で宮内省三天皇の侍医
- 66歳逝去 昭和4年6月5日[92年前]



一井正典・フィラデルフィア時代

1889~1892年代の日本人交流者たち

＜一井の渡米時代区分＞
1885~1889カリフォルニア時代 1889~1892フィラデルフィア時代 1892~1894ポートランド時代

- 19世紀後半, 当時フィラデルフィアは米国一の先進都市
- 熊本県人吉市出身の一井正典は1885年に渡米, 1889年にフィラデルフィア・デンタルカレッジ(現テンプル大学)を主席卒業, 米国本土で日本人初の歯科医院を開業、その後、教授となる
- 現地では多くの日本人留学生と交流, 中でも岩崎久彌(三菱財閥・岩崎彌太郎の長男)とは 特に交流が深い関係にあった
- 1894年に帰国, 1903年に神田駿河台下に移転開業。その後も米国留学生仲間たちと交流, その前後の状況を紹介する

一井正典と交流したと思われる人物たち

明治22(1889)~明治25(1892)~帰国後

資料: 岩崎久彌伝、一井正典・江嶋五藤太宛書簡、Phila-Niponica他



- 林民雄: 1885 渡米ペンシルバニア大学政治理財学科卒
- 寺島誠一郎: 1895年、ペンシルベニア大学政治経済科卒
- 岩崎久彌: 1888年ペンシルベニア大学ウオートンスクール卒
- 津田元親: 農学者津田仙の子息、津田梅子の兄弟
- 福沢桃介: 1887年慶應義塾卒業、アメリカへ渡り、ペンシルベニア鉄道で見知り
- 松方正雄: ペンシルベニア大学では復足の二塁手 阪神タイガース貢献
- 串田萬蔵: 1890年ペンシルベニア大学政治経済科卒
アメリカで銀行業務を体験
- 倉場富三郎: オハイオ・ウエスリアン大学、ペンシルベニア大学 1892年帰国 トーマスグラバーの長男
- 和田義隆: 1888帰国 岩崎の慶応時代恩師・和田義郎の長男

一井正典と関連するフィラデルフィア時代の友人たち

岩崎久彌(いわさき ひさや)

一井と岩崎久彌とは米国時代、帰国後も晩年まで交流が続いた
(「岩崎久彌伝」より)



- 岩崎弥太郎の長男として愛知家安芸市生れ
- 明治8年に福沢諭吉の慶応義塾入塾、父開設の三菱商業学校(明治義塾)に転じ、英語や簿記、法律、経済を学ぶ。慶応義塾を卒業1888年、ペンシルベニア大学ウオートンスクールに入学
- 1891年(明治24年)に帰国後、副社長として三菱に入り、1894年叔父岩崎弥之助に代り社長。以後、1916年岩崎小弥太に譲るまで、三菱財閥三代目として長崎造船所の近代化や東京・丸の内の開発、麒麟ビール、農政事業、製紙業などの創業にも関わった。
- 1924年、アジア学研究のための図書館・東洋文庫を設立するなど、様々な社会貢献をした。

一井正典との交流(岩崎久彌伝より)



↓

女、久彌であるから彼の生ひたれを知る者は殆どなかつた。當時ペンシルベニア大学その他に留學してゐた日本人で久彌が交はりを結んだのは松方正雄、林民雄、寺島誠一郎、倉場富三郎、串田萬蔵、和田義隆等である。松方は公費松方正義の四男、後の福富生命保険會社社長、林は日本郵船會社事務取締役、寺島は伯爵寺島清の長男で貴族院議員、臺灣拓殖會社取締役會長、倉場は「Mitsui Bussan Kaisha」の長男「T. W.」である。出田は同大政治經濟科を出て同市のドレスセル銀行で實習後三菱に入社、三菱銀行取締役會長三妻會社社長理事になつた。大学ではボートの名コックスといはれてゐた。和田は親友の一人だが、おそらく慶應義塾時代の恩師和田義郎の長男であるらしい。その外幾府で久彌が往來したのは同市で書料醫院を開いてゐた一井正典と三菱商業學校、明治義塾時代の恩師馬場辰猪である。一井は歸國後富内御用醫師をつとめ、晩年まで久彌と親交を結んだ。馬場は前節「久彌の師友」の所で述べたやうに富内富の運慶により大石巴と建捕投獄の

一井正典と関連するフィラデルフィア時代の友人たち

寺島誠一郎(てらしま せいいちろう)



- 1870—1929 明治-昭和時代前期の政治家。明治3年9月9日生まれ。寺島宗則の長男。明治26年6月6日没
- 学習院を卒業後1895年、ペンシルベニア大学政治経済科を卒業。その後フランスへ留学1899年、パリ法科大学、1902年パリ政治学院外交科卒
- 38年外相秘書官、貴族院議員となる。三井信託銀行監査役など、わが国を万国郵便連合や万国電信連合に加盟させるなど、電信・郵政事業に力量を発揮、“電信の父”といわれた。
- 家族: 父=長野 成宗(=祐照 薩摩藩士) 養父=松木 宗保

一井正典と関連するフィラデルフィア時代の友人たち

福沢桃介(ふくざわ ももすけ)



昭和13年2月15日死去。71歳。 1868—1938 明治-大正時代の実業家

- 明治・大正期の実業家。福沢諭吉の二女ふさの娘婿。1887年慶應義塾を卒業、諭吉の援助でアメリカへ渡り、ペンシルベニア鉄道で見習いをする。1889年帰国して北海道炭礦鉄道、王子製糸などに勤務したが、その間2度肺結核を患い退社。入院中に株に興味をもったのをきっかけに天下の相場師と呼ばれる
- その後、松永安左衛門と鉄道会社を創設。また電源開発にも手腕を発揮し、八百津発電所、矢作水力、大阪送電、大同電力などを設立。
- 川上音二郎の妻であった川上定奴との艶聞あり、
- 名古屋市東二葉町に貞奴邸を新築し、二葉御殿といわれ、政財界人や文化人のサロンとなった。

一井正典と関連するフィラデルフィア時代の友人たち

倉場富三郎(くらばとみさぶろう) Thomas Albert Glover



- 明治3年12月8日(1871年1月28日) - 1945年8月26日

トーマスグラバーと淡路屋ツルの長男

オハイオ・ウエスリアン大学、ペンシルベニア大学1892年帰国

ホーム・リンガー商会に入社、また長崎汽船漁業会社を興してイギリスから深紅丸を輸入し日本にトロール漁業を導入

『日本西部及び南部魚類図譜』の遺贈先を理解者の渋沢敬三に遺言状で指定



フィラデルフィア日米協会主催

「フィラデルフィアと明治日本」展示・講演会 近代文明の生成過程における日本とアメリカ重要性を紹介したもの 一井正典も近代西洋歯科のバイオニアとしてパネル紹介される



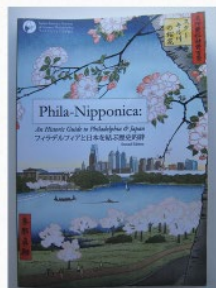
2017年7月8日～明治神宮参集殿にて

「フィラデルフィアと明治日本」展での 一井正典事跡・パネル紹介内容(右は日本語部分)



Phila-Niponica

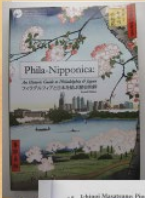
「フィラデルフィアと日本を結ぶ歴史的絆」本文中に一井を紹介
An Historic Guide to Philadelphia & Japan
1999年初版、2015年改版 フィラデルフィア日米協会出版



- この本で一井はフィラデルフィアに来た13名の日本人の一人として紹介された
- 他の日本人12名

原口要、柴四朗、小川一眞、岡見京子、内村鑑三、岩崎久彌、馬場辰猪、津田梅子、河井道、野口英世、有島武郎、高久甚之助

このように多くの日本人がフィラデルフィアと関連



「Phila-Nipponica・フィラデルフィアと日本を結ぶ絆」
 フィラデルフィア日米協会2015年刊
 本文中の一井正典の記述内容
 一井の生涯とカルフォルニア、フィラデルフィアの事跡



フィラデルフィアの特徴

歴史、教育、芸術、医学他、文化の先進性・保守性
 近代文明の生成過程における日本とアメリカの重要性を示唆



フィラデルフィアと日本の活動領域例

- アジア太平洋地域経済の台頭
- 日米の相互関心の拡大
- 女性教育機会の広がり
- キリスト教のグローバル化
- 日本スタイルのグローバル化
- ビジネスと医学のグローバル化

まとめ

一井正典は1889～1892の4年間、フィラデルフィアで多くの日本人と交流
 一井正典と多くの日本人がフィラデルフィアへ
 その目的はアメリカの思想と産業の吸収⇒今の日本を創った明治期のリーダー創り

当時のフィラデルフィア (1860～1880年代)



- アメリカ開国100年、1876年に世界万博も開かれフィラデルフィアは世界最先端の近代文化都市
- この地フィラデルフィアの教育がしっかりとしていた
- 日本人を受け入れる、その根底にキリスト教の慈愛精神があり
 多くのフィラデルフィア・コミュニティ(同胞愛)を形成
- さらに、その背景には米国の国力、軍事力(海軍)、産業がこの地に集中。それを1860年の遣米使節団、1872年の岩倉使節団が見ていた
- 多くの日本人たちが、この地で学び米国の西洋文化を日本に導入
 日本を築いたリーダーとなっていった